



ヤリ才便り

十月号

— 2022 —



糸路おまわりごさきせんのかい

「天高く人肥ゆる秋」さあがに何から何まで美味い季節で、秋の空はまさに天高く大きくなって、小さかった心の扉がスッと広がる分にはりまわります。今月はそんな心広がる言葉をお伝え出来れば幸いです。

「宇宙と魂をつなぐインディアン言葉」
平和。それは魂のうちにはやってくる。人々が宇宙をつながり

そのつらいつの力とつながり一体となることには驚くと、そのとき

が宿る者と悟つたとき。また実は宇宙の中心とつながりはどこにもあり、あそこ、ゆれゆれと揺り揺りの中にもあるんだとゆめかたとき、

心に平和のやってくる。ブレーク・エルク/オガラ・タコス族
この言葉は十数年前、麗沢大学を退官された望月幸義先生

から頂いた沢山の資料の中の一つで、お会いする度に先生ご自身が勉強された資料を惜しげなく下さったもので、今少しくつらつらと拝見して

やてハツと感心したりと感心したり。頂戴した多くの資料を一人占めせが、お伝えしなくてはという思いで新たに書いています。というわけで

今回は「シルシタルトの祈り」について心理学の観点から、お伝えしよう。忘れたいようにここに書かなくていいよ。

先生とのエピソードも大切な宝物のご紹介したいと思っております。先生に許す可なく書いたので大丈夫か？かほと思っております。……

相当大変な先生だから、ウソ多々か大丈夫か、ふりにお手紙を書こうと思っております。時は一瞬であり、一瞬は永遠でも

あると感心させてくれる自然の生命から学ぶ教えられる。……

深まる秋と時ゆりたいたと思ふこの頃です。風の冷たさの感じに

られる年のくみくみのご自愛より上お慰しとさせていただきます。
心より感謝を込めて
教員
令和四年十月一日
松本 幸一子

